

委員の感想

芦屋市環境づくり推進会議委員を終えて

沖本 晴子（生物担当）

私たちは、四季折々に変化する六甲、日光に輝く海を日々眺めている。うちの子も、芦屋に育つ多くの子どもたち同様、その幸せを当たり前と享受してきた。「エコ」「地球に優しく」の言葉が呪文のように飛び交うなか、推進会議の活動に参加させていただくうち、具体的なひとり一人の行動こそが、最も重要だと再認識した。活動で出会った小さい人たち、みらいを担う子どもたちと共に身近な、でも宝石のような自然に気づき、愛で守っていきたいと考えている。さあ、貴方も一緒に！

多田 洋子（渉外・広報担当）

私にとっての環境とは最低限のルールを自身が守るくらいにしか考えてなかったようにおもう。芦屋市は、北は山（六甲山）まんやかに池（仲ノ池）南は潮芦屋ビーチと3拍子そろった自然があります。今から大切にしていかなければ、失ったものを元にもどすのは並大抵の事ではありません。今回役目とはいえ少し勉強しました。芦屋市の自然環境を大切に守っていくには自分だけではなく、みんなと一緒に考えていかなくてはいけない問題だと考えさせられた2年間でした。

尾崎 澄子（生物担当）

環境づくり推進会議に参加して当初は果たして私でも何かお役に立てるのか不安でした。仲ノ池の観察とテーマが決まり、生物チームに末席をけがすことになり、セルビン作りに挑戦し、子どもたちと一緒に池につけるところから始めました。セルビンを引き上げてみて外来魚が多いこと、古来からの魚が少なくなっていることも知りました。

地球上の生き物は、人間のわがままによってずいぶん生きにくくなっていると思います。未来へ引き継ぐ子供達に、今環境学習が大切なことだと感じました。

私は続けることができませんが、環境づくり推進会議が今後とも引き継がれてますます実践し続けてくださいますよう祈ります。

水島 裕二（渉外・広報担当）

事業者委員としてはじめて参加いたしました。環境問題に対する皆さんの意識の高さや日常の活動ぶりに大いに刺激を受けました。コープこうべは長年にわたり、組合員と一緒に環境問題に取り組んできましたが、一番大切にしてきたことは「くらしの中で取り組む環境活動」です。これからも行政、地域の皆さんと力を合わせて、「くらしの中からSTOP温暖化!!」に取り組んでまいりたいと思います。

村上 敏彦（植物担当）

明治初期までは禿山の六甲の山々は弛まぬ治山と植樹により、現在は緑色の森になりました。

化学肥料、石油のお陰で山から草を刈り取り飼料・肥料・屋根を葺く、あるいは柴を刈り立ち木を伐採して燃料にする必要もなくなりました。

市民は森・草原に対する係わり合いと関心をなくし、それ等が人間ひいては生物全体に与えている多くの恩恵を忘れました。

そのため「森は緑であれば良い」、「緑いっぱいであれば自然である」といった誤解がみられます。

「健全な森とは、自然とは何か」を仲ノ池を例に、皆様とご一緒に考えたく委員活動を始めました。2年間の四季を通じて行った観察会に参加された多くの方々、とくに若い親子の様子に、循環型自然環境づくりへの望みを多少見出すことができました。

市域1,857haの半分以上を占める森林域も含めて、芦屋庭園都市が循環型の庭園になるよう、今後も努力したいと思っています。

往田 純子（植物担当）

「芦屋市環境づくり推進会議」として2年間の活動テーマを決定するまでの数回の会議では、仲ノ池の観察会がなぜ＜環境づくり＞なのか、＜環境づくり推進＞とどう関係するものなのか理解できませんでした。その上、何ら知識もないままに植物チームに加えていただき、戸惑いの連続でした。

が、春夏秋冬4回の仲の池自然観察会を通して、生物、植物が環境と大きな関わりがあることがわかり、その活動意義を認識することができました。

次世代の子供や若い両親達にこの活動が引き継がれていくことを考えると、環境問題の提起ともなりとてもいい企画だと感じました。私自身も環境への興味関心が高まりました。

また、里山の自然の中にあるみずほ農園の見学、さつまいもの苗の植え付けと収穫、落ち葉の堆肥作りなど初めてのことが多く大変楽しい体験でした。ありがとうございました。

岩野 順子（堆肥担当）

芦屋市環境課・公園緑地課のご協力により、仲ノ池に堆肥枠を作り、「落ち葉の堆肥化実験」を行いました。

ゴミの減量にもなり、多種の生物が生息することができ、循環型社会の形成にも役立つので、継続していきたいと思います。

川合 庸介（堆肥担当）

2年間、主に落ち葉の堆肥化実験に携わってきました。落ち葉は人から嫌われるとゴミとして回収され焼却されて、気候変動の原因となる二酸化炭素を発生します。しかし、好かれると有効な資源として集められ、土中の微生物の働きで分解されて、花や野菜を育てる堆肥として活用されます。微生物が分解する際、やはり二酸化炭素が発生するのですが、これは光合成によって植物に吸収されるので、増えていくことはありません。

実際にやってみると、実験箱の中のほうの温度が高くなり、発酵が進んでいるのが解ります。また、カブトムシの大きな幼虫がいくつも出てきたり、落ち葉がペチャンコになって堆肥が出来上がってくると、それはもう感動ものです。

皆さんもこの感動を体験しませんか？手軽に出来て、地球にも優しい取り組みです。

古市 景一（生物担当）

私はこの委員を何期か務めました、今期が一番充実していたと思います。それは懸案の一つであった「仲ノ池の自然」について一定の成果と見通しのようなものが少し見えてきたからです。生物種が多様性に富み、生態系のバランスを保って豊かだった1980年代の「仲ノ池の自然」を何とか取り戻したいという願いのもと、今期に参集された委員さんたちの賛同を得て取り組みが始まりました。そのためには、まず、仲ノ池という池を知ってもらうことから始めました。3回にわたる「仲ノ池市民自然観察会」を開催し、委員さんたちの活動を具体的に紹介しながら、仲ノ池の自然について、市民の方々とともに仲ノ池の自然を楽しみ、探るという取り組みでした。仲ノ池緑地公園の落ち葉で堆肥を作る取り組みもあわせて、たくさんの市民のかたがたのエコへの関心も高めることができました。

私の担当した「生物班」は、主として池の生き物の観察をとおして、池の生態系の「今」を明らかにすることでした。その中で「外来魚の問題点」について市民の方々に知っていただいたこと、また絶滅したと思われていたヨシノボリの生存がかなり確認されたこと、これも絶望的と思われていたテナガエビがともかく生存していたことが実物の採集で確認できたことは、とてもうれしいことでした。これで外来魚の駆除が進めば、本来の仲ノ池の生き物が復活できるのではないかというかすかな見通しと勇気がわいてきたのも大きな収穫でした。ヒメタニシの生存が確認されたことも、今後仲ノ池にヘイケボタルを増やす足がかりができたことでうれしいことでした。今後は仲ノ池の現在の自然を踏まえながら、徐々にでも元の自然を復活していけたらという課題ととりくんでいきたいと願っています。

もう一つは「農業体験」ということで、三木市にあるコープこうべの「みずほ協同農園」を訪れたことも印象に残っています。久々の芋ほりもとても楽しかったのですが、びっくりしたり感心したのは、そこでの堆肥づくりでした。各地のコープのお店で廃棄物として出された魚介類や痛んだ肉類、野菜などの有機物をここに運んできて、巨大な施設で大量の堆肥（有機肥料）を生産し、これで農園の野菜類を育てているとのことでした。こうやって育てられた野菜類は見事に育ち、また店頭に出すとのこと。おすそ分けしていただいたハウレンソウや小松菜は、柔らかく、独特の野菜の甘みがあってとてもおいしかったです。これこそ本当の意味でのエコであり、自然のサイクルを利用したみごとな取り組みだと感動しました。これも市民の方々と一緒に取り組んだ活動でした。こうした活動は地道でも、きっと芦屋の環境づくりに役立っているという思いを強くした2年間でした。



第5期芦屋市環境づくり推進会議 名簿 (H19.12.1~H21.11.30)

氏名	団体名等
会長 長井彦一郎	芦屋川ロータリークラブ環境問題特別委員会 副委員長
副会長 沖本 晴子	芦屋市子ども会連絡協議会 常任理事
稲本 順孝	日本ボーイスカウト兵庫連盟 芦屋地区委員長
多田 洋子	芦屋市コミュニティー・スクール連絡協議会 打出浜コミスク委員長
室井 明	芦屋市自治会連合会 副会長(~H21.1.19)
尾崎 澄子	芦屋市環境衛生協会
藤田 芳子	芦屋市商工会 理事
水島 裕二	コープこうべ 第2地区本部 組織統括
古市 景一	自然環境等専門的知識を有する者
村上 敏彦	自然環境等専門的知識を有する者
往田 純子	市民公募委員
岩野 順子	市民公募委員
川合 庸介	市民公募委員
上月 敏子	教育委員会学校教育部 部長
定雪 満	都市環境部 部長(~H21.3.31)
谷崎明日出	都市環境部 部長(H21.4.1~)

第5期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

日時	団体名等	日時	団体名等
H19.12.21	第1回推進会議	H21. 1.24	第12回(仲ノ池自然観察会)
H20. 2.20	第2回推進会議	H21. 2.18	第13回推進会議
H20. 3.26	第3回推進会議	H21. 3.18	第14回推進会議
H20. 5. 7	第4回推進会議	H21. 4.13	第15回(農業体験準備)
H20. 5.19	第5回(仲ノ池観察準備会)	H21. 4.25	第16回(仲ノ池自然観察会)
H20. 6.25	第6回推進会議	H21. 5. 9	第17回(農業体験・植え付け)
H20. 8. 5	第7回推進会議	H21. 6. 3	第18回推進会議
H20. 9. 4	第8回推進会議	H21. 7.25	第19回(仲ノ池自然観察会)
H20.10. 4	第9回(仲ノ池自然観察会)	H21. 8.27	第20回推進会議
H20.11.27	第10回推進会議	H21.10.17	第21回(農業体験・収穫)
H21. 1.13	第11回推進会議	H21.11.11	第22回推進会議

※H21.7.25の自然観察会は降雨のため中断し、中止となりました。

あとがき

仲ノ池自然観察会の一年間の活動を終えて、観察会のテーマの中で子供達一人ひとりが違った発見をし、それぞれの体験をしました。この何かを感じ得た事が子供達にとって貴重な体験になったと思います。

特に今回観察テーマである「一年を通じて仲ノ池の四季の移り変わり」は実際に子供達が季節ごとに自然と触れ合って実感し、春、夏、秋、冬と自然界のサイクルがとても明確に分かりやすい体験となった事でしょう。

そして、園内の落ち葉を集めて「堆肥実験」という初めてのこころみにも挑戦しました。この実験は行政と常に現場を監視できる委員の方々のご協力無しでは実現できませんでした。最初の方は色々と問題点も多くなかなか思うように進みませんでしたが、途中からは問題点も少しずつ改善し、最後にはとても良い結果をのこすことができました。

また、企業様のご協力のもと農業体験学習を実施することもできました。ただ野菜を収穫するだけでなく実際に自分の手で野菜の苗を植えてみて、植物の成長ぶりや、実の付き方などを観察することで大きな発見につながる機会となりました。そして何よりも子供達の楽しむ笑顔がとても印象的でした。

情報だけで学習する機会の多い世の中になってきましたが、やはり実際に自らが体験することによってしか得ることの出来ない機会をつくって共感していくことが、今後必要だと私達は思っております。

最後に、このガイドブックの作成にご協力して頂いた芦屋市環境づくり推進会議の委員の方々と、仲ノ池自然観察会の活動にご協力して頂いた行政、企業、奉仕団体など関係者の皆様、そして、仲ノ池自然観察会に参加して頂いた市民の皆様にもお礼を申し上げます。

第5期芦屋市環境づくり推進会議

会長 長井 彦一郎



第5期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

仲ノ池の自然

平成22年2月28日 発行

発行：芦屋市環境づくり推進会議
(芦屋市都市環境部環境課内)
〒659-8501 芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2051

編集：グラフィックアーツ ベルテ
〒530-0046 大阪市北区菅原町11-11
TEL 06-6362-5580

印刷：(有)仲明
〒660-0077 尼崎市大庄西町1-27-6
TEL 06-6416-5995

